

報道機関 各位

平成17年1月27日  
国立大学法人 広島大学  
情報化推進部情報企画課長

～アジア各国での現地工場研修を終えた学生による成果  
発表～  
「国境を超えるエンジニア教育プログラム  
(ECBO)」  
報告会の開催について

広島大学大学院工学研究科並びに同国際協力研究科は、「国境を超えるエンジニア教育プログラム(Engineers to Cross Borders,通称ECBO)」によって、アジア各国での現地工場研修(インターンシップ)を終了した学生による成果発表会を、下記のとおり開催しますのでお知らせ致します。

国境を越えるエンジニア教育プログラムとは、工学研究科と国際協力研究科が共同で実施する海外研修派遣型の新しい技術者教育プログラムであり、平成16年度 文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に採択されています。全学から十数名の学生を選抜し、約一ヶ月間、アジアの技術移転現場に「派遣」し、国際的な視野と技術者倫理、コミュニケーション力を養うことのできる「現場」を体験させることを目標としています。

報告会では、アジアに飛び出した学生達の奮闘努力を多くの方に聞いていただくとともに、それを通じて、アジアの現場で実際に起こっていることを感じていただければと思います。

## 記

日時: 平成17年2月3日(木)14:00～17:00

場所: 広島大学工学研究科大会議室  
東広島市鏡山1-4-1

内容:

14:00-15:00 特別講演「常石造船グループの海外戦略について」

講演者 長谷川 弘(常石造船執行役員)

15:00-17:00 1. 中国派遣チームの報告

2. マレーシア派遣チームの報告

3. フィリピン派遣チームの報告

4. 事後研修参加学生の報告

入場無料・申込不要です。

※国境を超えるエンジニア教育プログラムの詳細は、本学ホームページ  
→教育・学生生活→大学教育GP情報をご覧ください。

(<http://www.hiroshima-u.ac.jp/index-j.html>)

【お問い合わせ先】

広島大学工学研究科教育学生支援室  
長 池神  
TEL:082-424-7501  
E-mail kou-siencho@office.hiroshima-  
u.ac.jp

[発信枚数;A4版 3枚(本票含む)]

○[「国境を超えるエンジニア」教育プログラム詳細](#)

# 「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」選定事業 「国境を超えるエンジニア」教育プログラム

「国境を超えるエンジニア」実行委員会幹事 藤原章正, 安川宏紀, 西田恵哉, 濱田邦裕

広島大学が実施する「国境を超えるエンジニア(Engineers to Cross Borders,通称: ECBO)」教育プログラムが、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(以下, 現代GP)」に選定されました。現代GPとは、各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題に対応したテーマ設定を行い、各大学等から応募された取組の中から特に優れた教育プロジェクト(取組)を選定し、財政支援を行う制度で、高等教育の更なる活性化が促進されることを目的とするものです。ここでは、「国境を超えるエンジニア」教育プログラムの概要を紹介します。

## 1. 21世紀の技術者に求められる能力

現在、産業・経済のボーダレス化や、世界的な産業構造や分布の変革が進展しており、生産現場は勿論のこと、研究開発の現場でも、技術者の海外進出が必要不可欠な状況となりました。特に近年は世界の生産拠点化しているアジア諸国で活躍できる技術者が強く求められています。

国際的に通用する技術者を育成するためには、専門分野の知識は勿論のこと、異文化で育った現地技術者と外国語で交渉し、お互いを尊重しつつ共同して問題を解決する能力を教育する必要があります。このような総合的な能力の育成は、大学内の閉じた空間では限界があります。

そこで広島大学では、国際的に活躍できる21世紀の次世代技術者を育成するための新たな教育プログラムを開発しました。それが「国境を超えるエンジニア(通称:ECBO, エクボと読みます)」教育プログラムです。

## 2. ECBO教育プログラムの概要

ECBO教育プログラムでは、工学研究科と国際協力研究科が共同で実施する海外研修派遣型の新しい技術者教育プログラムです(図1)。全学から十数名の学生を選抜し、約一ヶ月間、アジアの技術移転現場に派遣します。これによって、国際的な視野と技術者倫理、コミュニケーション力を養うことのできる現場を体験させ、21世紀を担う次世代技術者を養成します。

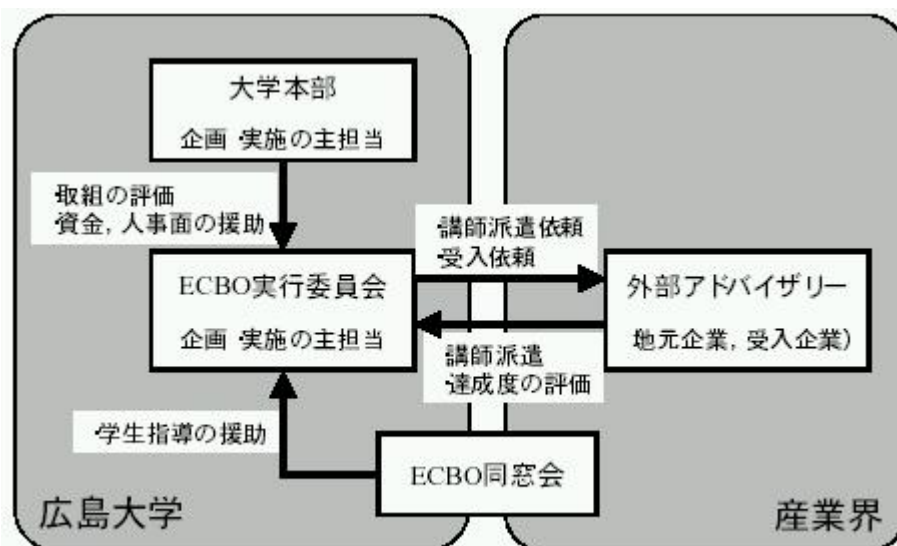


図1 組織図

本プログラムでは、現地研修のみではなく、事前研修、現地研修、事後研修を一連のパッケージとして提供します。事前研修では、日本型システムの特徴、技術移転の現状や派遣国の社会背景等に関する知識を習得するとともに、国内の母工場の見学や過去の派遣学生との議論を通じて、現地研修の課題を設定します。英語力を高めるための集中特訓も行います。

事前研修が終了するといよいよ現地研修です。本プログラムの派遣先を図2・表1に示します。派遣学生は自分で設定した課題を調査し、その成果を現地技術者の前で英語で発表します。さらに、現地の大学を訪問してアジアの学生と交流し、意識等の相違を体験します(写真1)。

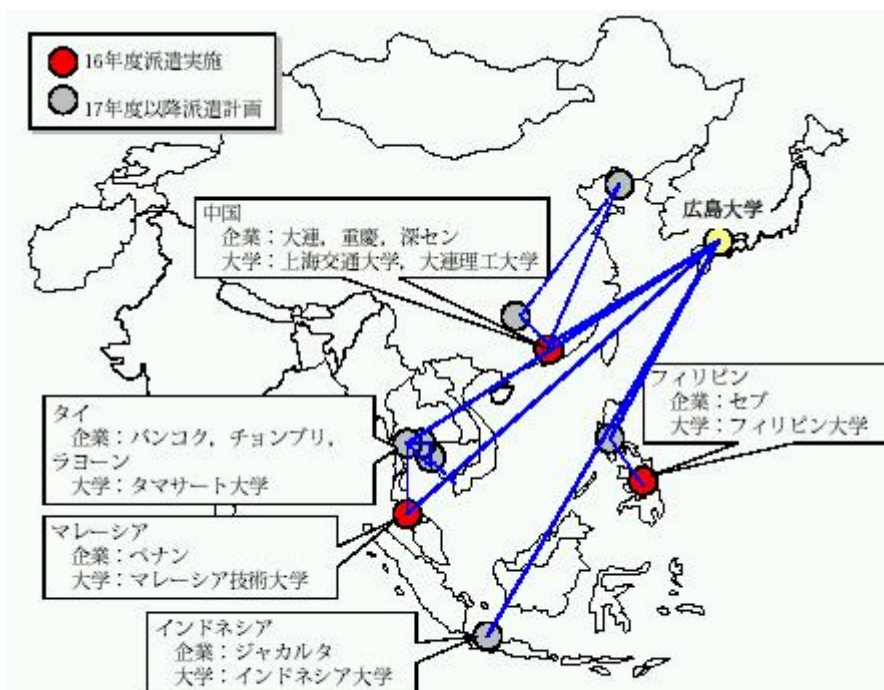


図2 派遣企業都市および学生交流校とのネットワーク



写真1: 学生交流(タマサート大学)



写真2: 公開報告会

事後研修では、派遣できなかった学生も交えて現地研修の成果について議論します。加えて、地元企業との連携科目を開設し、専門家を講師としたディベート演習を行います。そして、最終的には、一年間の取組の成果を、学外の方も招いた公開報告会で発表します(写真2)。

つまり、本プログラムは以下の特徴を持った広島大学独自の極めて独創的な技術者教育です。

- 教育資源(人材、場所、機会など)を学外に求める産学共同教育。
- 国際的環境の中にある現場を教育の場とする研修体験を核とした研修型教育。
- 十分な事前・事後教育を行い、設定した課題について自ら学ぶ教育。
- 派遣学生のみならず、現地研修に参加できなかった者にも同様の効果を期待する教育。
- プレゼンテーションと討論を中心とした学習により、技術者として必要な論理的思考能力、瞬間的判断能力、コミュニケーション能力を訓練する教育。

- 学生を教えられる側でなく、教える側にも立たせることによって成長を促す教育。

### 3. 結びに代えて

最後に、本プログラムを修了した学生の声を紹介します。

- 海外企業で研修を行い、その実態や技術、環境を直接体験することで、これまで自分がもっていたあらゆる認識が一変しました。これからの国際化に対する日本の技術者について、様々な課題を提示してくれるプロジェクトだと思います。アジア経済や産業に関心のある人はぜひ参加してください。
- 「日本のやり方は世界で通用しない！」と言われる昨今。では日本のやり方って？どこが通用しないの？わかりませんよね？百聞は一見に如かず。日本のやり方を海外へ移転している現場でなら、身を持って感じる事が出来ます。ECBOに参加してみてください。世界が変わります！

このような効果を得られたのは、教育パートナーである受入企業のご理解とご協力の賜物です。受入企業の皆様、本プログラムの試行時にご支援いただいたマツダ財団、ならびにプログラムの礎を築いていただいた茂里一紘先生(現広島工業大学長)ほか関係者各位に心から御礼申し上げます。

国境を超えるエンジニアホームページ:

<http://depro.naoe.hiroshima-u.ac.jp/~hamada/ECBO2/index.htm>